

合言葉	元氣にかかわり トライ&エラーで 伸びていく	教育目標	◎ よく考え 進んで学ぼう ○ みとめあい たすけあおう ○ じょうぶな体をつくろう
◎「よく考え進んで学ぼう」 基本的な学習習慣が定着し、自らの学びを調整し、主体的に学ぶ児童の育成 「はむらの授業指針」に基づき、デジタルとリアルの最適な組み合わせにより、自由進度学習・反転学習なども取り入れ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自己調整力を高め自立した学習者を育成する。言葉の力を土台として、自分の考えをもち、たくさんのかかわりの中で、見通しをもって振り返りながらねばり強く取り組み、トライ&エラーで最後までやり抜く児童を育成する。「やればできる。伸びている。役に立っている。」と実感できるようにし、学力・自己肯定感の向上を目指す。ユニバーサルデザインを意識して、学習の基礎基本が「わかった。できた。身に付いた。」と思える授業を行う。			
○「みとめあい たすけあおう」 あいさつ、気持ちのよい言葉づかい、援助要請、お礼が自然に言える児童の育成 「はむらの道徳科授業指針」に基づいた道徳や特活の時間を軸に全教育活動を通して、たくさんのかかわりをもち、友達と自らのよさを認め大切にできる心情・態度を育て、自己有用感、他者理解・他者尊重の向上を図る。縦割り班等の異学年交流や学校行事を活用し、人とのかかわりの中で、共に学ぶ喜びや多面・多角的な思考を育み自己を表現できるとともに、伝統・文化を理解し尊重できる児童の育成を図る。特別支援教育の充実を図り、人や自然と仲良く共生できる児童を育て、いじめ・不登校への適切かつ組織的な対応をしていく。			
○「じょうぶな体をつくろう」 基本的な運動習慣が定着している児童の育成 よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、休み時間には元氣によく遊び、体力や運動能力向上に努めることで、毎日明るく元氣に学校に来る気力、体力を充実させる。 ★「はむらの学校教育-すべての子どものよさと可能性を引き出し、伸ばす-」に基づき、児童が学ぶ喜びと自信がもてる学校、保護者・地域から信頼される学校、チーム力を生かし、主体的に課題を解決する学校を目指す。令和8年度は、『よく考え進んで学ぼう』を重点目標とし、基本的な学習習慣が定着し、人とのかかわりを重視し、自らの学びを調整し、主体的に学ぶ児童を育成する。学校DXも活用し、働き方改革をさらに進め、教職員の心身の健康を増進し、児童に寄り添う時間・気力を確保する。高学年では教科担任制、その他の学年もローテーションや交換授業を推進し、学年経営・ブロック運営に重きを置き、チーム羽村西小として全員が協力する、元氣にかかわる職員集団を形成していく。			

具体的な取り組み（●は重点項目、自己申告書にそれぞれ1つ以上記入）

学習指導	●「はむらの授業指針」に基づいた授業 全校で発達段階に応じた統一された指導。学習スタンダード→ハンドサイン、ノートを使い方、板書・授業の流れ、掲示物等単元配当表を活用し確実な実施 ●デジタルとリアルの最適な組み合わせにより、自由進度学習・反転学習なども取り入れ、指導の個別化・学習の個性化を実践し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、児童の自己調整力を高める
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ●見通しをもちトライ&エラーでねばり強く取り組み、目標に向かって努力し、最後までやり抜き、振り返ることでさらに自分を高めることができる授業 ●言葉の力を土台として、自分の考えをもち、情報活用能力、論理的思考力（必要な情報選択・読解力）を育てる授業 ○デジタルを活用した、ドリル学習、個に応じた課題・宿題（学年×10～15分）、スタディタイム等を実施し、学力調査等のアセスメントに基づいた指導を行い、「わかった。できた。身に付いた。」「やればできる。伸びている。役に立っている。」と実感させる ○「はむらの道徳科授業指針」に基づいた道徳授業の実践
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ●教室環境のユニバーサルデザイン化 生活スタンダード活用。ルールのある空間で皆が快適に生活できる環境づくり、暗黙のルールの見える化、児童の良いところが発揮される環境 ●人的環境のユニバーサルデザイン化「わからない」「できない」が出しやすいクラス・学年づくりの推進 ●笑顔であいさつ、気持ちのよい言葉づかい、援助要請、お礼が自然に言える児童を育成し、けじめをつけ、友達のよさと自らのよさを認め大切にする環境醸成 ○特別支援教育の充実 特性や発達段階等の的確な把握に基づく自立活動の充実 特別支援教室での指導の効果を通常の学級に波及、特別支援学級（くすのき）の児童との交流充実により、児童の理解促進 ○校内委員会の充実と巡回相談等医療や福祉、関係機関との積極的な連携と活用 ○毎週のいじめ対策委員会等を通して、いじめ・不登校への適切な対応の継続 ○不登校・教室不適応対応として、別室登校等支援を強化（にこにこ支援員配置） ○外遊びの奨励（週1回担任も一緒に外へ）、クラスレクの活用、体育の日常化 ○体力や運動能力向上に努め、毎日明るく元気に学校に来る気力、体力の充実 ○環境整備・美化を推進し、清掃活動や当番活動にしっかり取り組める児童を育てる（誉めて認め、主体性を育む指導） ○登下校・校舎内外での安全確保
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ●高学年教科担任制実施・学年運営強化 学年内交換授業・ローテ道徳で授業力・生活指導対応力等の向上 ●教職員のライフ・ワークバランス推進のため、学校DXを効果的に活用し、校務の効率化（分掌提案・教材のデジタル化・共有化、ランチミーティング月1回程度実施等）、時間講師の活用等による業務量の軽減、教員同士が互いに支えあい、計画的なハッピー休暇を各学期に半日休以上取得、定時退勤日合わせてマイ定時退勤日各月1回以上、年2回定時退勤ウィークを行事後の閑散期を狙って設定するなどの健康確保措置 ○ブロック運営強化 分掌主任・ブロック主任を軸として、組織として対応する。報告・連絡・相談を綿密にし、チーム羽村西小として全員が協力する、笑顔で明るく元気な職員集団を形成小 ○西小スタンダード 最低限の学習・生活スタンダード定着 単元担当表の充実 ○R9年度に実施予定の70周年記念式典に向けた準備開始
特別活動・その他	<ul style="list-style-type: none"> ●協働的な学びにつながる学級会の充実（授業観察で年1回は公開） ○人権に対する興味・関心を高め、学芸発表会実施し、人とのかかわりについて考え、自己を表現できることとともに、伝統・文化を理解し尊重できる児童の育成 ○環境整備、安心・安全・きれいな学びの場づくり推進 ○コミュニティスクール（CS）委員をはじめ、保護者・地域と連携し、しっかり情報発信し信頼される学校・金管バンド継続のための地域移行模索 ○小中一貫教育の推進の再構築
能力開発 研修・研究	<ul style="list-style-type: none"> ●校内研（授業観察でデジタルを活用した自由進度学習を年1回以上公開）・OJT・市教研等校外の研修会に主体的に参加・全員への還元 ○学校DXの推進 市ICT活用段階表に準じた確実な活用と西小端末使用ルールについての徹底 全員がICTは当たり前文具として活用 校務のDX化の推進

合言葉
元気にかわり
トライ&エラーで
伸びていく

学級教育目標

- ◎ 進んで学ぼう
- ☆ 友だちと仲よくしよう
- ☆ 元気にあそぼう

★教育課程に沿った指導の推進をする。特に重視する点を以下に抜粋・追記・再編した。

◎ 進んで学ぼう（自ら進んで学び、物事に意欲的に取り組む児童を育てる。）

- ・各教科の指導において、どの児童も学ぶ意欲をもって学習活動に取り組めるように、「はむらの授業指針」を踏まえ、指導に当たる。
- ・1人1台端末を活用したり、自由進度学習などを取り入れたりしながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自己調整力を高め、自立した学習者を育成する。
- ・「GIGA ワークブック東京」等を計画的に活用して、インターネットやSNS等に対する情報モラル教育を実践する。
- ・具体物を操作する活動や体験を通して学べるようにするとともにユニバーサルデザインによる授業や環境づくりを行う。
- ・児童の実態に合わせた教材・教具の創意工夫により、トライ&エラーで最後までやり抜き、「やればできる。伸びている。役に立っている。」と実感できるようにし、学力、自己肯定感の向上を目指す。
- ・羽村第一中学校区小中一貫教育実施計画を踏まえて、学力の向上を図るため、言語能力の向上に重点を置いた授業改善に努め小学校間の連携を充実させる。また、羽村第一中学校8組を小中一貫教育連携学級として、個性や能力の一層の伸長を図るため、9年間を見通した教育活動を行う。

○ 友だちと仲よくしよう（互いの良さを認め合い、友達と仲よく助け合う子を育てる。）

- ・小中一貫教育の道徳における指導重点目標、人権尊重の理念及び「はむらの道徳指導指針」を十分に理解したうえで、児童が学ぶ喜びのある授業を目指す。
- ・道徳科を中心に学校生活全般において児童相互の豊かな心のふれあいを啓発し自己有用感を高め、道徳的判断力・道徳的心情・道徳的实践意欲を養う指導を行う。
- ・学級での活動や他学級との交流など多くの人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を進め、豊かな人間性を育む。自分の意思を伝えることや相手の意見を聞く経験を積んでいく中で、お互いを認め思いやる心を身に付け、いじめや自殺を予防するとともに、より良い集団生活が送れるよう指導を行う。
- ・人権尊重の精神や生命に対する畏敬の念を培い、心豊かで共によりよく生きようとする児童の育成を目指し、児童の発達課題に応じた指導の工夫を図り、道徳的心情や判断力を育てる。

○ 元気にあそぼう（遊びの中で体を鍛え、心身ともに健康でたくましい児童を育てる。）

- ・校外学習、宿泊学習などの生活に密着した課題に取り組む学習・体験的活動を通して、身近な環境について学び、心身を豊かに働かせる活動を通して身辺自立・社会自立の力を育てる。
- ・体を動かす活動を意図的に設定し、様々な体の使い方や基本的な運動能力の向上、基礎的な体力の育成を図り、生涯にわたって運動に取り組む素地と意欲を育てる。

☆個別指導計画の推進

一人一人の実態を把握し、学校生活支援シート（個別の教育支援計画）及び個別指導計画を保護者と連携を取りながら策定し、個に応じた指導やグループ学習、集団で互いの良さを学び合う全体学習を行い、一人一人の実態に応じた丁寧な指導を行う。

☆特別支援教育の充実

くすのきツアーなどをはじめとし、**通常の学級との交流及び共同学習を計画的に進める**。また、特別支援教育コーディネーターを中心に、学校全体の特別な支援を要する児童を把握し、**校内委員会の充実を図るとともに、校内における支援体制を確立**していく。さらに、校内研修等の機会を使い、全教員の資質向上を図り、特別支援教育を充実させる。**ユニバーサルデザインによる授業や環境づくりを通常の学級に広める**。

☆キャリア教育の推進

児童の自己理解や友好的な人間関係を築くための活動を設定し、**将来の自立に向けての人間関係の形成、基本的な生活習慣等、自己管理能力の育成**を図る。また、情報活用、将来設計や意思決定などの育成を図る。

☆コミュニケーション能力の育成

学校生活全体を通し、**児童相互の豊かなかかわりを重視**し、言語活動の充実及び社会性の育成を図る。

☆健やかな成長を支える教育環境整備

- ・児童理解に基づく指導を最優先に行う。
- ・OJT研修などの機会を使い、**特別支援教育について全職員の資質向上**を図る。
- ・読書活動や体験活動で、地域人材・街の先生を活用した授業を実施していく。
- ・児童へ地域行事の参加を呼びかけ、校外の児童の活躍を見守り励ます。保護者や地域の方々と連携を深める良い機会とする。

☆その他の配慮事項

- ・医療・療育等の関係機関との連携を図り、よりよい指導体制を目指す。
- ・年三回の保護者会と年二回の面談を行うことにより、児童の教育方針についての共通理解を図る。
- ・放課後等デイサービス等、児童が利用する施設との連絡を密にし、情報を共有することによって、児童の健全育成を図る。
- ・家庭的に支援を要する場合は、スクールソーシャルワーカー（SSW）と連携し、通院同伴や朝の送り出し等、家庭に寄り添ったサポートを行う。
- ・児童だけでなく、保護者とスクールカウンセラーをつなぎ、保護者自身の支援体制を図る。

★子どもが学ぶ喜びと自信がもてる学校、保護者・地域から信頼される学校、チーム力を生かし、主体的に課題を解決する学校を目指す。令和8年度は、『進んで学ぼう』を重点目標とし、**基本的な学習習慣**が定着している児童を育成する。また、**人とのかかわりを重視**し、相手の話を聞くこと、自分の言葉で伝えることができる児童を育成していく。くすのき学級経営はもとより**通常の学級との交流及び共同学習、並びに通常の学級での特別支援教育の充実**に重きを置き、チーム羽村西小として全員が**協力**する、元気にかかわる職員集団を形成していく。